

Pichast ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより

第206号

ななえ古写真物語

VOL.206

残すべきもの

大雪と赤松並木

昭和47年

大中山地区か



Nanae Historical
Museum Collection

今年の冬は雪が少なく、1月に雨が降ったくらいだから、異常なまでの暖冬なんだと安心しきっていたのも束の間。2月に入った途端に、大雪に見舞われた。「帳尻は合うものだから」という、毎年口にして言っている言葉の通り、これまで足りていなかった積雪を取り戻すかの勢いで、あたり一面を白く染めた。

七飯町では2日間で約1mもの積雪があったそう、当館でも屋根に積もった雪が落雪し、窓の半分以上にもなり、光を遮る結果となったため、あわてて排雪や雪下ろしを敢行せざるを得なかった。年間積雪量という点では、記録的な大雪ではないにせよ、きわめて短期間で積もったことと、湿り気のある重たい雪だったため、雪かきに難渋した人も多かっただろう。

大雪が続いた後の2月7日のこと、出勤した職員から、赤松並木の枝折れが10カ所以上もあり、交通整理員も出ていたという報告を受け、文化財でもある赤松並木の被害状況を記録するため、函館市桔梗町から峠下地区まで車を走らせた。道中、国道を管理している函館開発建設部函館道路事務所の関係者が、赤松に積っている雪を落としたり、枝を伐採し歩道に積み上げている光景を何度も目にし、無残にも幹ごと倒れてしまった赤松も一本あったので、今回の大雪が、想像以上の被害となってしまったのだと判断した。

しかも、まだ雪は降り続けている。ニュースでは取材中に赤松から落雪があり、町民が間一髪で被害を免れた様子が放送されていたが、現場の赤松並木には、厚く積雪したままの木が多数あったので、被害が拡大する懸念をしていたのだが、ついに車に枝が落ちてしまう事故まで発生。路肩に積まれた枝は、諸事情により2週間ほど放置され、ようやく撤去するに至った。近年まれにみる大雪による被害だったため、その状況を記録したく書き綴っておく。

さて、上の写真は約50年前の赤松並木の雪景色である。手前左側に建てられた看板を見ると、右側には「菊池毛皮工業所 ナメシ・加工」の文字が判読できる。毛皮業がまだ盛隆していたのだろうか、現在の国道沿いでは見られなくなった看板といえる。また左側の看板では「昭和団地 函館土地興業株式会社」という文字が読み取れる。「昭和団地」なるエリアが何処にあたるのかは、調べ切れていないが、桔梗町と神山町を繋ぐ「昭和団地通り」が今もあり、その起点となっているのが、国道5号にあたることから、現在の桔梗町のあたりを示しているのではと想像している。

地名や景色など、変わってしまうものは必ずある。赤松並木もその一つだろうが、瞬間的な惨事によって、すべてを無いものとする、安易な決断がされないよう注意を払いたい。

16日 夜の博物館後期講座第2夜

「道南アイヌ史—七飯の事例を中心に—」と題し、市立函館博物館学芸員の太矢京右氏をお招きしました。1911年、皇太子（後の大正天皇）の行啓の際に大沼を訪れ、弁開胤次郎が奉迎したときのお話や1933年、大沼ピリカ会主催による先住民民族遺品陳列所の公開、1937年のヘレンケラーの来道では、大沼で休養し、屋形船に乗る写真を紹介し、その様子を興味深く拝見しました。このような事例を通し、七飯とアイヌ文化の関わりは意外にあることが分かり、受講者の皆さんも熱心に聞き入っている様子が見られました。



25日ジュニア探検クラブ

博物館三昧な一日でした。まずは、北方民族資料館。解説を聞きながら、アイヌ関連の資料を見ることができました。続いては、旧イギリス領事館。古い建物ならではの、木の床がきしむ音に驚く子どもたち。展示を見ながら、建物の造りにも発見があったようです。最後は、摩周丸。青函連絡船に馴染みがない子どもたちは、詳しい解説を聞きながら、船内を探検します。専門機器や国際信号旗の意味など、勉強になることが多い場所でした。



28日 赤川小学校さんの見学

当館では初の受け入れとなる函館市立赤川小学校3年生の見学。資料を間近で見たり、実際に触れたりしながら昔の道具の比べ方を学んだり、自分たちの住む地域が、どのようにして村から町に変化したのかを、明治時代の七飯町の様子を再現したジオラマを例にお話しました。自由見学では、タブレットを用いて写真を撮ったりしている児童の姿。最近では当たり前の光景ですが、勉強の仕方の違いに、こちらの方が時代の変化を感じています。



1	土
2	日
3	月 休館日
4	火
5	水
6	木 夜の博物館 第4夜
7	金
8	土
9	日
10	月 休館日
11	火
12	水
13	木
14	金
15	土
16	日
17	月 休館日
18	火
19	水 ピチャリ第207号発行
20	木 春分の日
21	金
22	土 ジュニア探検クラブ
23	日
24	月 休館日
25	火
26	水 企画展OPEN予定
27	木
28	金
29	土
30	日
31	月 休館日

※休館日：3日、10日、17日、24日、31日

何に使う道具？

見学する小学生に「この道具の名前は？」と質問し、正答率が低い道具です。答えは「霧吹き」です。



編集後記 ~tawagoto~

急にやってきた雪の多さに辟易し、道を歩くときの路面に注意し、何かと気の抜けない今年の冬。立春を過ぎてても、春の気配はやって来ない。南の国の桜が咲いたというニュースは羨ましく感じてしまう。去年の暮れに青森を旅したとき、たまたま訪れた本屋の店主が、道路際にうず高く積まれた雪を見て「一年に降る量は均すと同じだから、あとは酒でも飲んでやり過ぎさ」と笑って言った。その言葉に雰囲気は和み、寒空を歩く足取りも軽くなった。

Pichari ~ピチャリ~

第206号

令和7年2月20日発行

七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3

電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182

E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp